

東映アニメーション新大泉スタジオ

Toei Animation Ooizumi Studio

No. 10-050-2017作成

新築
事務所

発注者	東映アニメーション株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO ₂ 技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	清水建設株式会社一級建築士事務所 SHIMIZU CORPORATION	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	清水建設株式会社	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

クリエイティブスタジオとサスティナブルデザイン

世界の子どもと人々に「夢」と「希望」をとどけるスタジオ

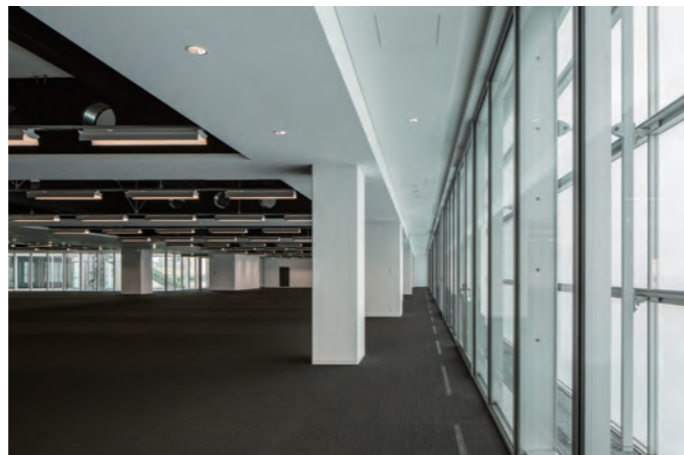
敷地は東映アニメーションの創業の地、そしてジャパンアニメーション発祥の地である練馬区大泉学園。建物はアニメーションの製作スタジオとしての機能の他、アニメを通じての企業文化の発信のためのギャラリー等の来客施設で構成されている。これら施設機能を融和させ、施設の魅力を効果的に発揮させる空間構成の創出を図っている。環境負荷を低減するサスティナブルデザインとエンジニアリングに取り組み、執務環境を犠牲にすることなく、「夢」と「希望」をとどけるスタジオとして、採用技術が建物の空間構成と合理的に融合する計画としている。



建物外観

ファサードエンジニアリング

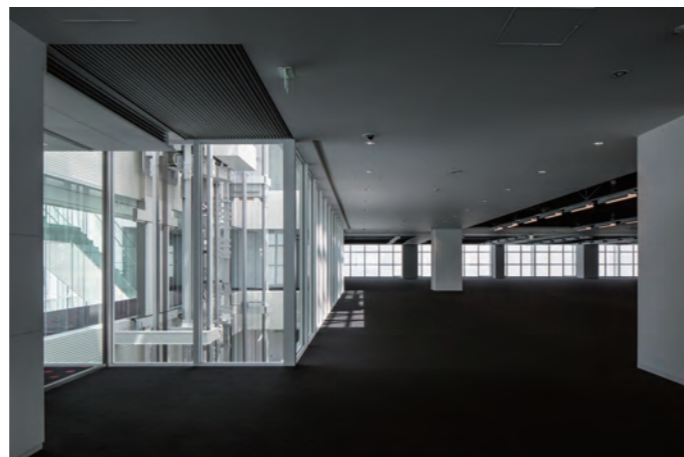
アニメ・企業文化の発信、製作スタジオとしての秘匿性、そして近接する住宅地との適度な距離感、これらへの応答としてスタジオ空間の開口部は白色のセラミックプリントガラスを外装としている。アルミとガラスによる外装の素材構成は新しい時代のアニメーションスタジオを想起させる。優しく視線を遮るセラミックプリントガラスは外装内外の明暗により光学的性能を変え、時々刻々と変化する環境を映し、周辺環境と同化している。外装は外部負荷を室内に侵入させないようダブルスキンを採用。空調排気、外気の給排気が行える。中間期はインナースキンを開放することで外部の冷涼な空気をスタジオに導き、さらに南北のダブルスキン内の温度差を利用することで自然換気を促進している。



ダブルスキン近景・スタジオ内観

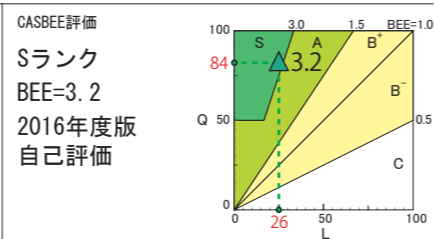
クリエイティブスタジオ

一般的な事務所ビルでは専有部とされるスタジオは、階段・トイレ（コア）と単に区画するのではなく、スタジオとコアを融和させ、スタッフ相互の協創を誘発する仕掛けとしている。スタジオ内には環境装置（自然採光・換気塔）としてのボイドが配され、その内部を展望用エレベーターが上下する。アクティビティの表出と建物内の移動に際しスタジオが垣間見れる。スタジオは極力、内装仕上を施さない設えとしている。これにより容易に情報・照明インフラにアクセスできるため、スタジオ機能の変更・拡張等に際し、自在にスタジオ環境をチューニングできる。また子どもたちに夢を与える場あるいは魅力ある職場として、スタッフが自由に演出を施していくことを意図している。



コア・スタジオ内観

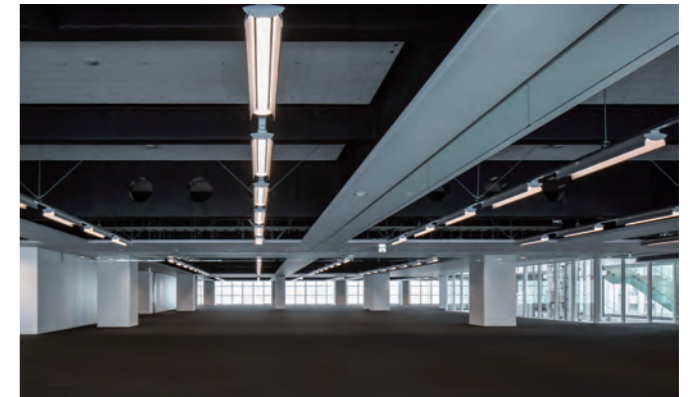
建物データ	
所在地	東京都練馬区
竣工年	2017年
敷地面積	5,600㎡
延床面積	9,804㎡
構造	SRC造
階数	地下1階、地上4階



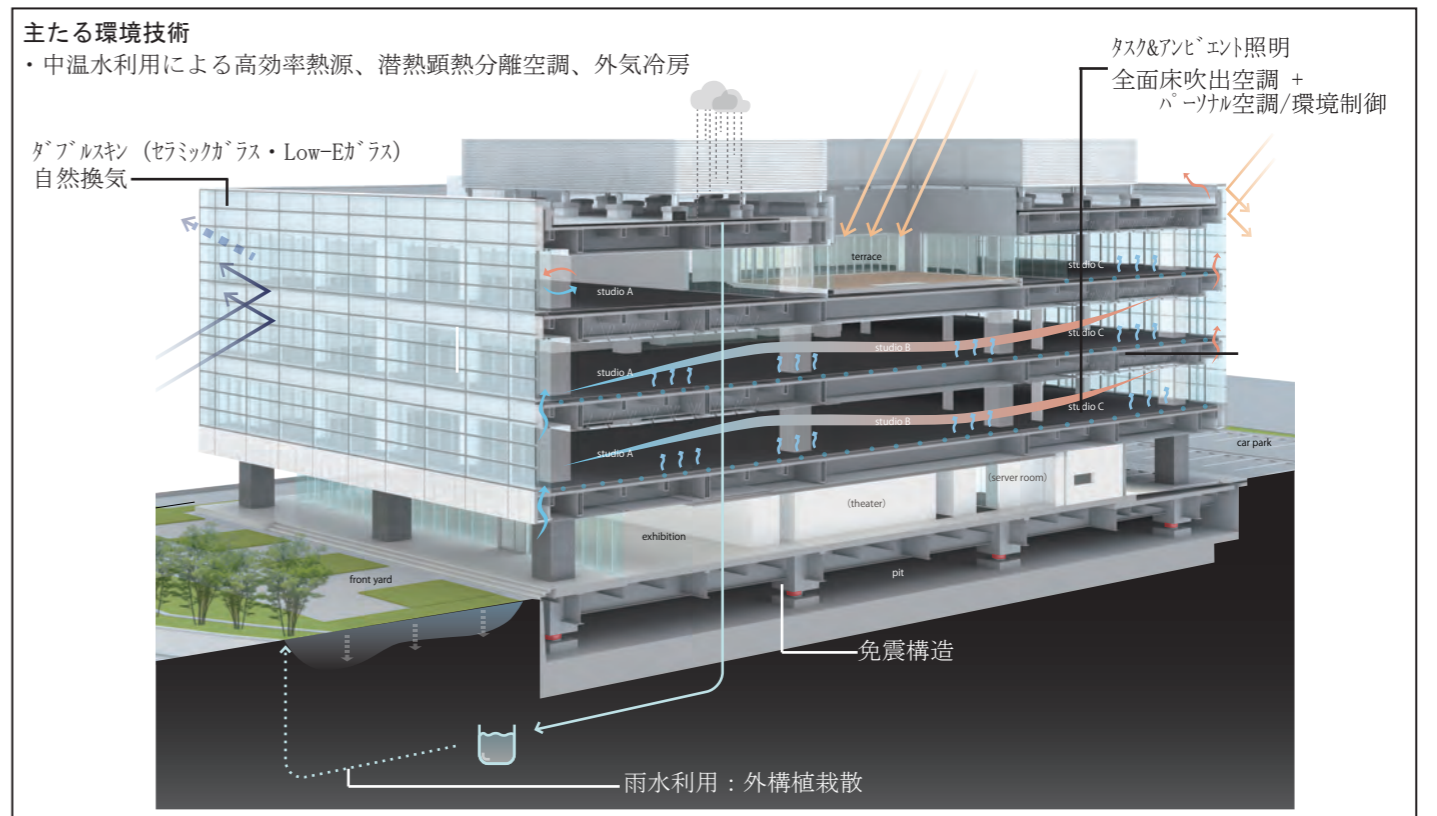
タスク&アンビエントからパーソナル&アンビエントへ
製作スタジオは全面床吹出し空調を採用、OAフロア（二重床）より空調している。天井吊型空調機からの水損、静穏な環境の創出、自由なデスクレイアウトに配慮したことに拠る。これにより天井内に設備機器・ダクト等の設置が不要となり、天井材を排し高天井高のスタジオとした。アニメーションの製作スタジオとしての視覚環境に配慮し、全体照度は300lx（LED）に設定。照明は配光特性を可変可能な新開発アンビエント照明を全面的に採用。これにより映り込みなどを嫌う作業の際は上向配光とする等、執務形態に合わせて配光を変えられる。なお照明器具1台1台スタッフ各人が調光できる機能を備えている。
ダブルスキン・効率的な設備システム・自然エネルギー利用に加え、設定温度の緩和といった運用面での工夫も併せて実施している。さらにデジタル系作業を行うスタジオではPCサーバーの輻射熱と排熱により通常の空調のみでは快適とはなり難いため、当計画では全面床吹出し空調に併せ、調温・調湿した空気を別系統から供給、執務者の背部から吹出すパーソナル環境制御を開発・適用した。各座席に各座席床面に設置された吹出口はファンを内蔵、空調用空気と除湿された低温処理の外気をミキシングして吹出し、温度および風量の変更が可能で個人の嗜好に合わせた温度環境制御としている。



エコボイド



スタジオ内照明設備



設計担当者

統括：定久 岳大/建築：定久 岳大/構造：浅見 達郎/設備：森田 英樹、藤岡 宏章/写真撮影：有川 幸雄、野秋 達也

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q2.2. 耐用性・信頼性（免震構造・設備信頼性向上）
- Q2.3. 対応性・更新性（スケルトン&インフィル）
- LR1.1. 建物外皮の熱負荷抑制（セラミック・Low-Eガラスによるダブルスキン）
- LR1.2. 自然エネルギー利用（エコファット・自然換気・自然採光）
- LR1.3. 設備システムの高効率化（中温水利用による高効率熱源・全面床吹出し空調およびパーソナル環境制御・潜熱顕熱分離空調・LED照明によるタスク&アンビエント照明）
- LR1.4. 効率的運用（BEMS）